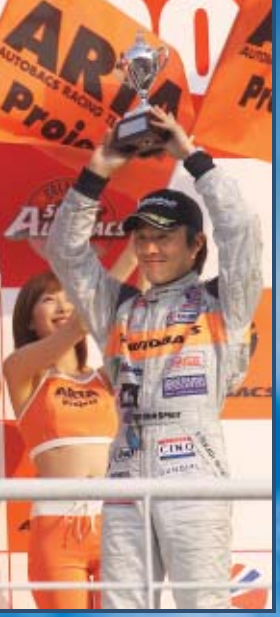


第56期　事業報告書

2002年4月1日から2003年3月31日まで

オートバックスセブン株主通信 Vol. 3　Spring 2003

Show Get-key

しょうげき～衝撃～

目 次

Contents

ごあいさつ 1

トピックス 6

なぜなにオートバックスグループ
● vol. 1 店舗フォーマット 7

ガライヤ開発物語
● vol. 1 開発の経緯 9

カー用品情報
● カーオーディオ 11

ARTA 活動報告 12

財務報告 13

株式情報 19

会社情報 20

株主の皆さまへ
アンケートのお願い 21

オートバックスグループ
ホームページのご紹介 22

ごあいさつ

「トータルカーライフサポート」

皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

オートバックスセブン株主通信「Show Get-key」のVol. 3をお届け致します。弊社の第56期事業報告書も兼ねる本誌では、事業の根幹にある概念や、広がりを見せる事業ドメインについてもご報告させていただきます。

当期（2003年3月期）のご報告

当期の日本経済は、景気に明るさを見出すことのできないままに推移しました。消費の回復もみられず、カー用品市場におきましても比較的堅調だったカーエレクトロニクス関連でデフレの影響によって価格競争が激しくなるなど、厳しい環境の中にありました。

このような中、当期のオートバックスグループは消費意欲を刺激する店舗、品揃えと、専門的な知識に裏づけられた的確な接客で、引き続きお客さまのご支持を頂戴しました。前年比では少々弱含みの決算となったものの、市況と比べると堅調な業績を確保しています。

オートバックスセブンとしての連結ベースでは、売上高がフランチャイズ法人の子会社化もあり前期比で微増した一方、販売管理費がかさんだこと、また店舗の統廃合に伴う特別損失の発生があったことから利益は減少しました。

の実現に向けて

特に期初の予定よりも大幅に増えた販売管理費については、人員増に伴う人件費の増加と、注力しております中古車・車検等を中心とする積極的な販売促進活動がその大きな要因でした。しかしながら、これら費用はいずれも短期的には売上や利益に結びつきにくいものの、中長期的な視点でみると弊社が目指す事業の方向性「カー用品販売業からトータルカーライフサポート業へ」を推進し、お客さまによりご満足いただける店づくりとオートバックスグループのファンづくりに寄与するものと考えています。

代表取締役　CEO
住野　公一
略歴

1948年大阪に生まれる。
1970年立命館大学経済学部卒業後、弊社の前身である大豊産業株式会社に入社。主に貿易・教育・店舗運営・販促を経験、1994年から現職。休日の時間がある時には、学生時代から続けているチェロを奏でる。

「トータルカーライフサポート」の方向性

オートバックスグループは、1974年に日本初のカー用品総合専門店のワンストップ業態である「オートバックス」を出店して以来、常にお客さまの視点に立ち、「お客さまのため」を念頭においた事業展開を行ってきました。

私たちが掲げる大きなテーマは、「車好きのユートピアをつくること」、そして「世界中のドライバーを車好きに変えること」の二つ。

お客さまに車をただの乗り物としてではなく、人生を豊かに変えてくれるパートナーとして訴求し、それを体感できる店をつくる。そして、お客さまに車に関するあらゆる楽しみ方を提案し、車という素材を理想のパートナーへと一緒に仕上げていく。そんな究極のテーマを実現するために、私たちは「トータルカーライフサポート業」への転換を進めています。これはつまり、従来の車に関わるモノを売る販売業から、車の楽しみ方を提案するソリューション業への進化を意味し、私たちは様々な取り組みを始めています。

また、この方向性は同時に私たちの成長につながるものでもあります。これまで主戦場としてきたカー用品市場は、新車における純正品の装着率と質的向上で後から手を加える必要機会が減っていることと、長引く景気低迷の影響で縮小しつつあります。その様な環境下、従来のカー用品の枠を超えた新たなフィールドでの展開が求められています。

弊社では、新業態の開発による取り扱い商品・サービスの拡充、また業態間の差別化によるエリアの共有と店舗網の再編を加速しています。これによってオートバックスブランドを強化し、夢のある事業展開で長期的な集客力向上を目指します。

「トータルカーライフサポート」実現のための取り組み

◆新業態の投入

1997年、オレンジの看板でおなじみの『オートバックス』の枠を超え、お客さまのカーライフをより豊かにする商品とサービスを提供する『スーパーオートバックス』を投入しました。2003年5月末時点で45にまで店舗数を増やし、オートバックスグループの主力業態になりつつあります。

2000年には、中古カー用品の専門店である『オートバックス走り屋天国セコハン市場』を、さらに2002年には、セルフサービス形式のガソリンスタンドと利用頻度の高いカー用品、メンテナンスサービスを提供する『オートバックス・エクスプレス』を投入するなど、新業態の開発も積極的に行っています。いずれも店名に『オートバックス』を含み、オートバックスブランドの安心感でお客さまを呼びこみ、店舗数・売上において順調な成長を遂げています。

◆店舗網の再編

これまではエリア内の収益性を高める上で、個々の店舗商圏と売上を重視していました。その観点から不振店舗の統廃合を行い、当期までにほぼ終了しています。

今期（2004年3月期）においては、店舗網再編をさらに一歩進めるため、個店重視の「点」の展開から、エリア内におけるグループ各業態の最適な配置を目指す「面」の展開へと軸足を移します。

「面」の展開においては、各業態の商圏が重なっても取扱い商品やサービスですみわけを行い、顧客を共有化すると同時に、互いに協力してエリア全体の営業力強化を図ります。

まず広い商圏をもつ『スーパーオートバックス』をエリアの核とし、車好きのお客さまを対象とする商品とサービスを提案。周囲にある複数の『オートバックス』では、より利用頻度が高い消耗品や普及品などに特化した

品揃えをし、近所にある、いつでも立ち寄れる店づくりをします。また『オートバックス』店舗に来店されたお客さまでも、より専門的な商品や幅広いサービスをご希望の方には、最寄りの『スーパーオートバックス』をご紹介できる体制づくりを行います。

こうすることで従来店舗のある地域でも、さらにオートバックスグループ店舗の展開を行うことが可能となり、協力し、互いを補完しあいながらの効率的な店舗網が構築できるのです。

◆ピットサービスの充実

オートバックスグループの店舗ではこれまでも、お買い上げ頂いた商品の取り付けを中心としたピットサービスを提供してきました。現在はこれを充実し、お客さまの利便性と満足感を高め、来店機会を増やす取り組みを行っています。

ピットスタッフの技術の向上と知識の充実により、安心感・信頼感の向上に努めるとともに、車を持っていれば必ず必要となる車検と整備サービスを強化。店舗に併設された施設で、受付から車検・整備を行うことができる指定工場取得店舗を増やしています。

特に『スーパーオートバックス』においては、数多くのピットを設置し、アライメントなどの調整や各種部品の取り付け、簡易板金塗装、さらには車内のクリーニングまで、幅広いサービスでお客さまの期待にお応えできる体制を整えています。今後も、各店舗ごとのサービスと設備の充実や従業員の教育を通して、オートバックスならではの満足度の高いピットサービスを提案していきます。

◆社内風土の改革と従業員の教育

お客さまのニーズと満足を念頭におき、直接にお迎えする従業員、また店舗をサポートする本部社員にも「お客さま主義」を徹底させるべく、社内風土の改革と社員の教育に取り組んでいます。

また車に関する全てを提供するには専門的な知識が不可欠との観点から、技術者の養成や、各店舗での接客担当者の研修活動などを推し進めています。お客さまが愛車をどうされたいかに合わせて、最適な商品・サービスと楽しみ方を提案し、お客さまからの信頼獲得を目指していきます。そして、それはオートバックスファンづくりにも役立つことと考えています。

◆車を介した夢の提供

私たちは、1982年から本格的なモータースポーツ活動を行っています。現在は元F1レーサーの鈴木亜久里氏と協力し、世界で活躍できる日本人レーサーの育成を目的とするARTA（Autobacs Racing Team Aguri）プロジェクトを主催しています。1997年に活動を開始した同プロジェクトでは、海外を含む数々のレースに参戦して、成果をあげています。

また弊社では、車好きが楽しめるスポーツカー「ガライヤ（我来也）」を開発しています。開発を発表した当初、“カー用品店であるオートバックスが車をつくる”ということで話題になりました。しかしこれは、私たちにとって決して意外なことではありません。「トータルカーライフサポート」具現のための一つの手段であり、車好きが一度は乗ってみたかった夢の車を創りあげていくプロジェクトなのです。

これら二つのプロジェクトは、「トータルカーライフサポート」、つまり車の楽しみ方を提案する上で欠くことのできないものなのです。同時に、お客さまにオートバックスグループの夢をお伝えし、共鳴してファンになっていただくことも目的の一つです。

コーポレートガバナンスと株主還元について

弊社では、商売の最前線である店舗運営を中心とする現地現場主義を掲げ、2002年6月に執行役員（オフィサー）制度を導入しました。現在は、本部が各事業部と連携しながら店舗をサポートする体制を敷き、オフィサーへの権限委譲を進めています。

株主の皆さまへの利益還元については、安定的、かつ漸増的な配当の維持を経営の要諦としています。今後も、自己株式の取得を視野に入れながら、積極的な利益還元を行う考えです。

社会貢献活動および環境保全活動

弊社は企業市民として社会の一員たるべく、各種社会貢献活動と環境保全活動に力を入れています。

1999年の第1回開催から協賛している「障害者ゴルフ大会東京フィランスロピーオープン」は、障害者や高齢者が日常生活に障害を感じないバリアフリーの社会づくりを主旨としています。

環境保全活動においては、店舗における廃棄物のリサイクルを中心とした適正な処理、その他販売においては中古用品取り扱いによるリユース、保証期間の長期化による商品のロングライフ化、廃棄物を削減するリデュースの各取り組みを行っています。

今期の取り組み

今期は、「トータルカーライフサポート業」への転換を目指した各種取り組みをさらに前進させます。同時に当期業績の反省に基づいて投資の基準を明確化し、事業基盤の整備に努めます。

また弊社では今期から、既に単体ベースで行っている四半期開示を、連結ベースでもスタートします。

皆さまには、進化し続けるオートバックスグループへの変わらぬご支援と、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2003年6月

住野 公一

代表取締役　CEO

トピックス

2002年4月

- オートリファイン株式会社と業務・資本提携
- オートバックス・エクスプレス129厚木店新規オープン

2002年6月

- 株式会社バックスウイングシステム設立

2002年7月

- オートバイテル・ジャパン株式会社とカー用品のEC事業分野において提携
- 「autobaX CARLIFE STYLE SHOP AOYAMA」オープン

2002年8月

- 「全国で使える2年間有効の2万円相当メンテナンスクーポンプレゼント」企画実施

2002年10月

- 「第4回障害者ゴルフ大会　東京フィランスロピーオープン」に協賛
- 「高速道路料金5,000円キャッシュバックキャンペーン」実施
- 「オートバックス・カーズエキスポ神戸ポートアイランド店」（兵庫県神戸市）新規オープン
- DENONのカーオーディオ、スーパーオートバックス専売モデル新発売

2002年11月

- 「韓国駐在事務所」開設

2002年12月

- 「オートバックス・カーズかしわ沼南店」がスズキ株式会社と販売代理店契約を締結

2003年3月

- 株式会社デイトナと業務・資本提携

2002年12月　「オートバックス・カーズかしわ沼南店」がスズキ株式会社と販売代理店契約を締結

「オートバックス・カーズかしわ沼南店」は、スズキ株式会社と販売代理店契約を締結しました。カー用品チェーン店が自動車メーカーの新車の販売代理店となり車両を販売するという業態は、国内で初めてのケースです。併設の「スズキアリーナかしわ沼南」においてスズキの小型四輪車の販売を開始しています。

2003年3月　株式会社デイトナと業務・資本提携を決定

二輪・四輪カスタムパーツの企画・開発・販売を手掛ける株式会社デイトナと業務・資本提携を決定しました。弊社のモータースポーツ商品の販売力強化と、市場シェア拡大を目的とした提携で、これにより、二輪及び四輪用品の効率的な商品調達が実現し、また専門技術力・開発力のあるデイトナと共同での新商品開発も可能になるものと期待しています。今後は両社協力のもと、二輪・四輪用品を扱う小売業態の開発・展開も検討していきます。

株式会社デイトナグループが運営する二輪用品専門店「ライコランド」

なぜなにオートバックスグループ

Vol. 1 店舗フォーマット

オートバックスグループでは、1974年に「オートバックス」店舗の第1号店を出店して以来、店舗数を増やし続け、2003年5月末現在までに国内523店舗、海外10店舗になりました。フランチャイズシステムの活用で全国展開を進め、現在は業態を増やしながら店舗網の充実を図っています。

『スーパーオートバックス』の展開

『スーパーオートバックス』は、3E・3C・3Mのコンセプトのもと、「最高の商品」と「最高のサービス」を、「最高の設備」と「最高の技術」で提供することを目指して誕生しました。従来の『オートバックス』の業容を拡大させ、品揃えと技術の幅と奥行きを強化し、他のカー用品店にはない、お客さまのカーライフをあらゆる面でサポートする店舗です。

一般的な車内小物などのカー用品はもとより、輸入カーオーディオ、大口径アルミホイール、チューンナップスポーツパーツなど、車好きのお客さまにもご満足いただける専門的な商品を多く取り扱っています。ピットサービスにおいてはこれら商品の取り付け、車検・整備はもちろん、板金・塗装、カーオーディオのカスタマイズ、車のチューンナップにまで対応します。

中古車・新車販売の取り組みも開始しており、20,000台を超える豊富な在庫の中からお客さまのニーズに合った車をお選びいただけます。さらにオートバックスグループが取り揃える商品・部品・ピットサービスが、お客さまのご希望に沿ったオリジナルカー制作をサポートします。

1997年に千葉市に第1号店を出店して以来6年が経過し、『スーパーオートバックス』のフォーマットがほぼ出来上がりました。今後は既存の『オートバックス』からの転換を含め、フランチャイズでの展開をさらに推進する予定です。また、店舗網の整理・拡充を進めていくにあたり、エリアの旗艦店として『オートバックス』などと協調・補完しながら、営業力をさらに強化していきます。

エグゼクティブ・オフィサー
スーパーオートバックス
事業開発担当
角倉　正親

『スーパーオートバックス』のコンセプト

3E	Excitement	興奮
	Entertainment	楽しさ
	Enthusiasm	熱中・こだわり
3C	Casual	気楽・普段着感覚
	Comfortable	快適・居心地よさ
	Cleanness	統一された清潔感
3M	Magic	魔法・魔術・奇術
	Miracle	奇跡・不思議・奇異
	Magnificent	壮大な・雄大な

〈主な店舗フォーマット〉

オートバックス

カー用品のワンストップショッピングと、その場で交換・取り付けを提供する、オレンジの看板でお馴染みのカー用品総合専門店です。国内432店舗、海外9店舗を展開しています。

スーパーオートバックス

従来のオートバックスを大幅に上回る広大な敷地・売場で、車にまつわる豊富な商品・サービスを提供しています。ドライブミュージックを集積したCD売場や軽飲食コーナー、輸入雑貨コーナーなどエンターテイメント性の高い売場づくりで、ワクワク・ドキドキ感を演出。性別年齢を問わず、多くのお客さまに楽しんでいただける店舗です。またピットサービスにおいても、車検・整備からカーケアまで、充実したメニューを揃えています。売場面積が500坪以上の「スーパーオートバックスType Ⅰ」と300～500坪の「スーパーオートバックスType Ⅱ」の2種類を展開しており、店舗数は、国内45、海外1です。

オートバックス走り屋天国セコハン市場

オートバックス走り屋天国セコハン市場は、中古カー用品の専門店です。全国のオートバックスグループで下取りした中古カー用品や、メーカーからのアウトレット商品などを多数取り揃えています。2000年に神奈川県へ第1号店をオープンして以降、近年のリサイクルブームも後押しする形で店舗数を伸ばし、現在、16店舗を展開しています。

（店舗数は5月末現在です）

Garaiya ガライヤ開発物語

Vol.1 開発の経緯

ボディライン

車体外観のデザインのテーマは、「エアロ・ウェッジシェイプ」です。曲線の躍動感と、シャープなラインによる力強さをあわせ持つ、美しいスタイリングです。

ガルウィング

ドアには、ガルウィングを採用。スポーツカーの醍醐味を演出します。

軽量ボディ

1トンを切る車重で、軽快な走りを実現しました。

今号から4号連続で、オートバックスセブンが世に送り出すスポーツカー「ガライヤ」をご紹介します。開発を発表した当時、大きな話題を集めたガライヤ。今号では、「なぜカー用品店を展開しているオートバックスグループが車をつくるのか」というきっかけとその背景、そして開発の体制が整うまでをご紹介します。

車好きの夢を実現

2001年12月、弊社はカー用品専門店を展開する企業として初めてスポーツカーを自社で開発・販売することを発表しました。車の名前は「ガライヤ(我来也)」。中国、明の時代に実在した義賊の名を冠して敏捷さを示しているこの車は、ロードゴーイングカーとして卓越した性能と躍動感あふれる美しさを兼ね備えています。「現代の車好きの夢をカタチにしたい」、そんな情熱と意志に支えられ、「ガライヤ」は開発の最終段階にあります。

これまでカー用品の専門店として成長してきたオートバックスグループは現在、その領域を広げ、車の楽しみ方を提案する「トータルカーライフサポート業」への転換を図っています。「ガライヤ」を通して私たちの、そして車好きのお客さまの夢をカタチにする。また、これまで車に興味をお持ちでなかったお客さまにも車の楽しみを伝える。それらを実現するための一つのステップとして今回取り組むこととなったのが、「ガライヤ」の開発なのです。

「ガライヤ」の開発テーマは、「非日常性の演出」。力強いフロント、流麗なラインを見せるサイド、翼のように開くガルウィングタイプの扉(ドア)。フォルムの美しさは他に類をみません。また1トンを切る軽量ボディで、軽快でスピーディーな走りを実現しました。お客さまがご購入後もご自分の「ガライヤ」に手を加えられるよう、各種カスタムパーツの開発を予定しており、カスタマイズされた自分だけの夢の車を創りあげる楽しみを提供します。アジア発であると同時に、スポーツカーの殿堂イギリスにおいて手仕事で作られる「ガライヤ」。世界中の車好きの夢を託されたこの車が、今、走り出そうとしています。

「オートバックス・スポーツカー研究所」の設立

2001年4月、オートバックスセブンは、全額出資の子会社「オートバックス・スポーツカー研究所(ASL)」を設立しました。トミーカイラの名で知られるチューニングコンプリートカーを手がけてきた「トミタ夢工場」のスポーツカー開発部門を傘下に収めて5人の技術者を迎えいれ、さらにオートバックスや外部からのスタッフで始動した同社は現在、主に生産の現場となるイギリスで開発活動を行っています。

オートバックスにおいては、「ガライヤ」の開発を通じて車好きの夢をカタチにすることで、長期的にはオートバックスファンの獲得にもつながることと期待しています。

※「ガライヤ」について、詳しくは下記URLをご参照ください。
http://www.asl.info/
(オートバックス・スポーツカー研究所)

AUTOBACS SPORTS CAR LABORATORY
ASL

ASLのシンボルマークであるハミングバード(ハチドリ)は、中南米を中心に生息する鳥で、空飛ぶ宝石といわれるように、極彩色の美しい羽根をもっています。また、俊敏であると同時に、空中で静止することもできる独特の飛び方も特徴的です。ASLはこの鳥のように、特徴のある車を提案していきたいと願っています。

カー用品情報　カーオーディオ

オートバックスグループでは、メーカーと共同でオリジナル商品の開発を行っています。お客さまのニーズを直接に掴むことのできる弊社と、それぞれの分野において技術と経験を持つメーカーが協力することで、これまでにはない新しい価値のある商品を発売することが可能になりました。弊社は開発小売業として、既存の商品を仕入れるだけではなく、ニーズに合致した独自の商品を開発することでお客さまにワクワク感を提供するとともに、業界のトップ企業ならではの商品と付加価値を創造しています。なお、オリジナル商品はオートバックスグループ店舗のみでの販売となり、他社との差別化に役立っています。

CQ-VX01D

松下電器産業株式会社と共同開発したカーオーディオ「CQ-VX01D」は、専用の金型を使用した完全なオリジナルモデルです。本体前面のアクリルフェイスパネルを取り外して内部のカラーチェンジシートを交換することで、多彩な表情が楽しめます。2002年6月に発売後人気を集め、オートバックスグループの2002年度販売台数ランキング（2 DINカーオーディオ部門）において第3位となりました。カラーチェンジシートは当初、雰囲気の異なる2セット6枚（別売）を準備していましたが、好評につき1セット3枚を2003年2月に追加発売しています。

木目

カーボン

大理石

レッドアルマイト

ヒョウ柄

ミラー

CQ-VX02D

2003年6月末に発売予定の「CQ-VX02D」は、「CQ-VX01D」の第二世代商品です。ボタン一つで、本体全面のアクリルフェイスパネル部分の照明色が切り替わる機能を搭載しました。橙・赤・紫・青・水色・緑・パール・グラデーション・ユーザーカラー（64パターンより選択）・オフの10パターンから選択が可能です。男性ユーザーのみならず、インテリアを重視する女性ユーザーもターゲットにしたアイテムです。

ORENGE

FIRE

SUNSET

SKY

OCEAN

FOREST

PEARL

ARTA活動報告

私たちは「ARTA（Autobacs Racing Team Aguri）Project」を通じて、本格的にモータースポーツ活動に取り組んでいます。元F1ドライバーの鈴木亜久里氏を中心とするこのプロジェクトでは、「世界に通用する日本人ドライバーの育成」をスローガンに、レーシングドライバーとしての潜在能力を秘めた若者を発掘しています。国内ではカートから、全日本GT選手権、フォーミュラ・ニッポンなど、さらにはDTM（Deutsche Touring Car Master）やFormula Super Renault V6を始めとする欧州、米国のIRL（Indy Racing League）などに参戦し、活動の場を世界各地へと広げています。

オートバックスでは、単なるスポンサーとして広告効果を狙うのではなく、車好き、レース好きのお客さまと夢を共有し、カーレースへの参画で当社の技術力と姿勢をアピールすることがコーポレートイメージを高めるものと考え、今後もARTAの活動を全力でサポートしていきます。

ARTA Garaiyaが全日本GT選手権に参戦

オートバックスグループが、車好きの夢をカタチにすることを目指して開発したオリジナルスポーツカー「ガライヤ」。その「ガライヤ」が、新たなレーシングカー「ARTA　Garaiya」として、2003年度全日本GT選手権のGT300クラスに参戦しています。美しいスタイリングに、サーキットでの最高のパフォーマンスを求めて造り上げられた装備を搭載。レースマシンとしての完成度は極めて高く、GT300での健闘が期待されています。「トータルカーライフサポート業」を目指すオートバックスグループの新たな象徴として、「ARTA Garaiya」は走り出しています。

2002年度の主な活動結果

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン

選手名	脇阪寿一	金石年弘
ランキング	3位	7位

全日本GT選手権

クラス	GT500	GT300
選手名	土屋圭市・金石勝智	新田守男・高木真一
ランキング	10位	1位

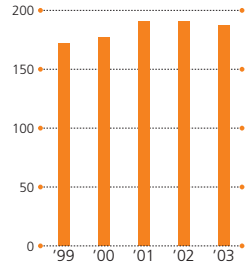
※「ARTA」について、詳しくは下記URLをご参照ください。
オートバックスグループのモータースポーツ活動について詳しくご覧いただけます。
http://www.autobacs.co.jp/motorsports/index.html（オートバックス／モータースポーツ）

連結貸借対照表

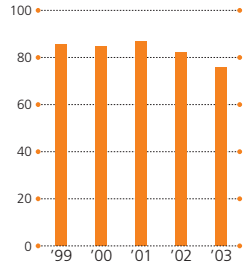
単位：百万円

	第55期 （平成14年3月31日現在）	第56期 （平成15年3月31日現在）	増減 （△は減少）
（資産の部）			
流動資産	**82,042**	**75,828**	**△6,214**
現金及び預金	33,198	23,681	△9,516
受取手形及び売掛金	12,859	12,272	△587
有価証券	3,760	5,721	1,960
たな卸資産	15,918	17,549	1,630
繰延税金資産	2,832	2,240	△591
短期貸付金	860	1,333	473
未収入金	12,824	13,302	477
その他	1,965	1,826	△138
貸倒引当金	△2,177	**△2,100**	77
固定資産	**108,773**	**111,310**	**2,537**
有形固定資産	**53,948**	**59,463**	**5,515**
建物及び構築物	22,646	26,370	3,723
土地	23,762	25,014	1,251
その他	7,538	8,079	541
無形固定資産	**3,430**	**2,795**	**△634**
投資その他の資産	**51,395**	**49,051**	**△2,343**
投資有価証券	16,779	16,128	△651
長期貸付金及び長期差入保証金	31,692	28,990	△2,702
繰延税金資産	2,886	3,182	296
その他	2,192	2,069	△125
貸倒引当金	△2,156	△1,319	836
資産合計	**190,815**	**187,138**	**△3,677**

総資産



流動資産



資産の状況
有価証券とたな卸資産等が増加した一方で、主に現金及び預金の減少があったため、流動資産は62億14百万円減少しました。また、店舗のスーパーオートバックス化等に伴って有形固定資産が増加しました。総資産は前期末と比べて36億77百万円減少し、1,871億38百万円（前期末比1.9%減）となりました。

たな卸資産
連結対象店舗の増加により、前期末に比べて増加しています。

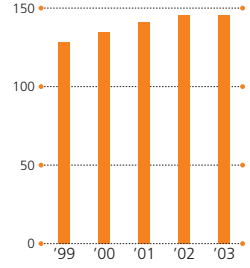
建物及び構築物
スーパーオートバックス43道意店、スーパーオートバックス市川店等のスーパーオートバックスの出店が主な増加要因です。

注）1. 有形固定資産の減価償却累計額31,702百万円
2. 1株当たり当期純利益106円76銭
3. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

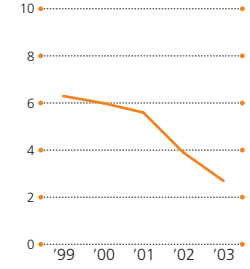
単位：百万円

	第55期 （平成14年3月31日現在）	第56期 （平成15年3月31日現在）	増減 （△は減少）
（負債の部）			
流動負債	**33,468**	**29,961**	**△3,506**
支払手形及び買掛金	14,170	13,109	△1,061
短期借入金	4,917	3,111	△1,805
未払法人税等	2,394	2,342	△51
その他	11,985	11,397	△588
固定負債	**10,697**	**10,834**	**136**
長期借入金	2,316	2,019	△296
退職給付引当金	1,385	1,299	△85
役員退職給与引当金	261	233	△27
連結調整勘定	—	42	42
その他	6,735	7,239	504
負債合計	**44,166**	**40,796**	**△3,370**
（少数株主持分）			
少数株主持分	**1,257**	**524**	**△733**
（資本の部）			
資本金	**31,958**	**31,958**	**–**
資本剰余金	**31,719**	**32,241**	**522**
利益剰余金	**81,901**	**84,523**	**2,622**
その他有価証券評価差額金	**△169**	**△126**	**42**
為替換算調整勘定	**△16**	**△179**	**△162**
自己株式	**△1**	**△2,601**	**△2,599**
資本合計	**145,391**	**145,817**	**426**
負債、少数株主持分及び資本合計	**190,815**	**187,138**	**△3,677**

株主資本



ROE



負債の状況
主に支払手形及び買掛金と短期借入金の減少により、前期末と比べて33億70百万円減少し、407億96百万円（前期末比7.6%減）となりました。

短期借入金・長期借入金
グループ内融資による外部借入金の返済により、長短借入金が21億円減少しています。

株主資本
前期末に比べ4億26百万円増加して、1,458億17百万円（前期末比0.3%増）となりました。自己株式の取得による金庫株が増加したことにより株主資本が減少した一方で、利益剰余金が26億円増加したことが主な要因です。また一株当たり株主資本は、前期末に比べ99円93銭増加して3,979円2銭（前期末比2.6％増）となりました。株主資本比率についても、前期末の76.2%から77.9%と1.7%向上しています。

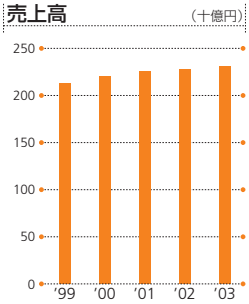
注）　資本の部の表示方法について
商法施行規則の改正に従いまして、当期から資本の部の表示方法を変更しています。

連結損益計算書

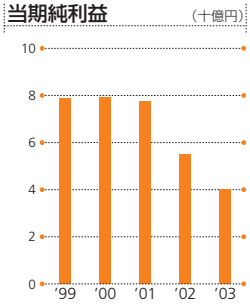
単位：百万円

	第55期 （自平成13年4月1日 至平成14年3月31日）	第56期 （自平成14年4月1日 至平成15年3月31日）	増減 （△は減少）
売上高	**227,737**	**230,478**	**2,741**
売上原価	163,056	163,457	400
販売費及び一般管理費	55,111	59,369	4,257
営業利益	**9,569**	**7,652**	**△1,917**
営業外収益	5,081	6,210	1,129
営業外費用	2,379	3,589	1,210
経常利益	**12,271**	**10,273**	**△1,998**
特別利益	900	480	△420
特別損失	3,021	1,137	△1,884
税金等調整前当期純利益	**10,149**	**9,616**	**△533**
法人税、住民税及び事業税	6,058	5,392	△665
法人税等調整額	△1,181	300	1,481
少数株主損失	247	80	△167
当期純利益	**5,520**	**4,003**	**△1,517**

売上高



当期純利益



売上高
タイヤ・ホイール及びオイル・バッテリーが落ち込みましたが、当期の重点施策である車検・中古車販売に注力したことと、フランチャイズ店舗及び法人の統廃合による子会社化があったことにより、2,304億78百万円（前期比1.2%増）となりました。

販売費及び一般管理費
オートハローズ店舗を含めた店舗と法人の統廃合と、車検・中古車販売の導入費用など競合からのシェア奪取のための販促費用等の増加により、42億57百万円増加の593億69百万円（前期比7.7％増）となりました。

連結キャッシュフロー計算書

単位：百万円

	第55期 （自平成13年4月1日 至平成14年3月31日）	第56期 （自平成14年4月1日 至平成15年3月31日）	増減 （△は減少）
営業活動によるキャッシュ・フロー	**11,795**	**7,925**	**△3,870**
税金等調整前当期純利益	10,149	9,616	△533
減価償却費	5,409	5,394	△15
売上債権の増減額（増加：△）	△71	△130	△59
たな卸資産の増減額	△1,087	△842	245
その他	5,114	△1,319	△6,434
小計	19,514	12,718	△6,796
利息及び配当金の受取額	858	806	△52
利息の支払額他	△196	△154	42
法人税等の支払額	△8,380	△5,445	2,935
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△8,856**	**△8,002**	**854**
有形及び無形固定資産の取得による支出	△8,770	△10,331	△1,562
有価証券・投資有価証券の取得・売却	△2,057	△1,236	821
その他	1,971	3,565	1,595
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△5,296**	**△9,098**	**△3,802**
短期借入金の増減額（減少：△）	△2,286	△2,562	△276
長期借入による収入	1,153	773	△380
長期借入金の返済による支出	△2,951	△3,467	△516
自己株式取得による支出	△1	△2,575	△2,573
配当金の支払額	△1,349	△1,349	0
その他	138	82	△56
現金及び現金同等物に係る換算差額	**73**	**△25**	**△98**
現金及び現金同等物の減少額	**△2,284**	**△9,200**	**△6,916**
現金及び現金同等物の期首残高	**35,575**	**32,835**	**△2,740**
合併による現金及び現金同等物増加額	**8**	**－**	**△8**
連結子会社除外に伴う現金及び現金同等物減少額	**△464**	**△197**	**266**
現金及び現金同等物の期末残高	**32,835**	**23,437**	**△9,397**

営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動の結果得られた資金は、79億25百万円（前期比32.8%減）となりました。これは主に、法人税等の支払額54億45百万円があった一方で、税金等調整前当期純利益96億16百万円の計上および非資金項目の減価償却費53億94百万円の調整があったためです。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動に要した資金は、80億2百万円（前期比9.6%減）となりました。これは主に、投資有価証券の売却等による収入71億82百万円（前期比14.1％増）、および貸付金の回収による収入19億96百万円（前期比17.2％減）があった一方で、ソフトウェアを除く有形及び無形固定資産の取得による支出97億28百万円（前期比22.7％増）および投資有価証券の取得による支出102億35百万円が（前期比4.9％増）あったためです。

財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果使用した資金は、90億98百万円（前期比71.8%増）となりました。これは主に、短期借入金の減少額25億62百万円（前期比12.1％増）、長期借入金の返済による支出34億67百万円（前期比17.5％増）および自己株式の取得による支出25億75百万円があったためです。

貸借対照表（単体）

単位：百万円

	第55期（平成14年3月31日現在）	第56期（平成15年3月31日現在）	増減（△は減少）
（資産の部）			
流動資産	**76,870**	**72,986**	**△3,884**
現金及び預金	29,256	19,904	△9,351
受取手形及び売掛金	15,681	15,604	△76
有価証券	3,760	5,721	1,960
たな卸資産	7,496	8,092	595
繰延税金資産	1,810	1,503	△307
短期貸付金	7,843	10,472	2,628
未収入金	11,782	12,856	1,073
その他	1,581	1,406	△174
貸倒引当金	△2,343	△2,575	△231
固定資産	**106,745**	**112,886**	**6,140**
有形固定資産	**43,198**	**49,734**	**6,535**
建物及び構築物	19,045	23,674	4,629
土地	21,070	22,932	1,861
その他	3,082	3,127	44
無形固定資産	**3,015**	**3,258**	**243**
投資その他の資産	**60,530**	**59,892**	**△637**
投資有価証券	15,550	14,932	△618
長期貸付金及び長期差入保証金	35,454	33,997	△1,457
繰延税金資産	3,360	4,639	1,278
その他	9,765	9,601	△163
投資損失引当金	△1,391	△908	482
貸倒引当金	△2,208	△2,368	△160
資産合計	**183,616**	**185,872**	**2,256**
（負債の部）			
流動負債	**28,828**	**28,632**	**△195**
買掛金	12,830	12,070	△760
短期借入金	577	646	68
未払法人税等	2,029	1,834	△195
その他	13,390	14,082	691
固定負債	**8,109**	**8,909**	**799**
退職給付引当金	872	878	5
役員退職給与引当金	239	192	△46
その他	6,997	7,838	840
負債合計	**36,938**	**37,542**	**604**
（資本の部）			
資本金	**31,958**	**31,958**	**－**
資本剰余金（資本準備金）	**31,719**	**32,241**	**522**
利益剰余金（利益準備金＋その他の剰余金）	**83,139**	**86,813**	**3,673**
利益準備金	1,296	1,296	－
任意積立金	74,222	78,331	4,109
当期未処分利益	7,620	7,184	△435
その他有価証券評価差額金	**△137**	**△106**	**31**
自己株式	**△1**	**△2,577**	**△2,575**
資本合計	**146,678**	**148,330**	**1,652**
負債及び資本合計	**183,616**	**185,872**	**2,256**

損益計算書（単体）

単位：百万円

	第55期（自平成13年4月1日 至平成14年3月31日）	第56期（自平成14年4月1日 至平成15年3月31日）	増減（△は減少）
売上高	**201,937**	**203,435**	**1,498**
売上原価	160,221	161,739	1,518
販売費及び一般管理費	32,695	34,776	2,081
営業利益	**9,020**	**6,918**	**△2,101**
営業外収益	4,941	5,231	290
営業外費用	1,357	1,627	270
経常利益	**12,604**	**10,523**	**△2,081**
特別利益	898	509	△389
特別損失	3,821	2,239	△1,581
税引前当期純利益	**9,682**	**8,792**	**△889**
法人税、住民税及び事業税	5,525	4,731	△793
法人税等調整額	△1,417	△993	423
当期純利益	**5,574**	**5,055**	**△519**
前期繰越利益	**2,720**	**2,804**	**83**
中間配当額	**674**	**674**	**△0**
当期未処分利益	**7,620**	**7,184**	**△435**

注）1. 資本の部の表示方法について
商法施行規則の改正に従いまして、当期から資本の部の表示方法を変更しています。

2. 有形固定資産の減価償却累計額
当期　23,442百万円

3. 一株当り当期純利益134円87銭

4. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

業態別店舗数

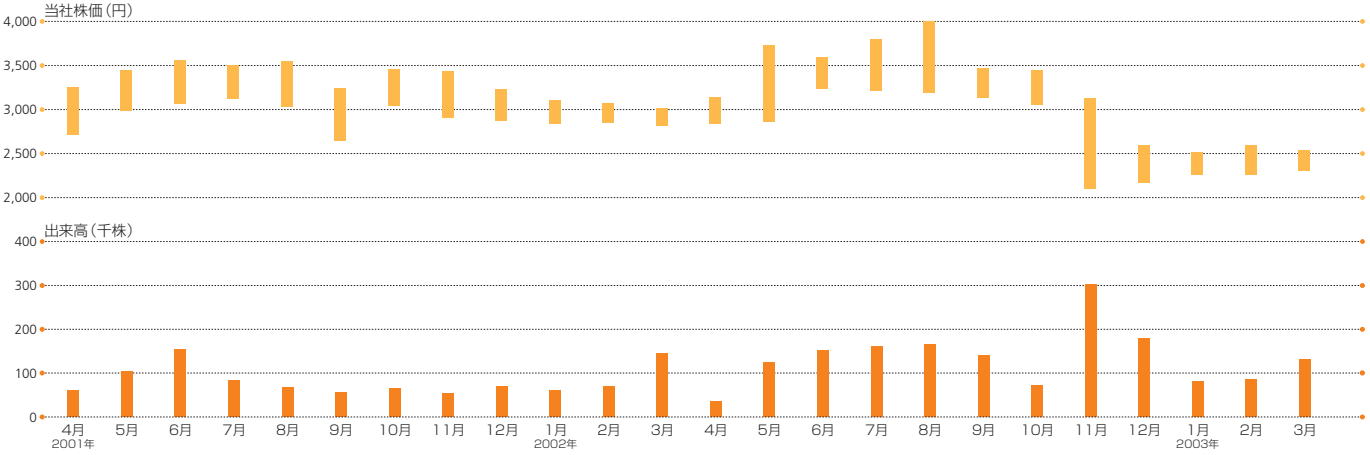
	第55期 （平成14年3月31日現在）	第56期 （平成15年3月31日現在）	増減 （△は減少）
オートバックス	459	**435**	△24
スーパーオートバックス：	29	**43**	+14
Type I	5	**5**	−
Type II	24	**38**	+14
オートバックスエクスプレス	3	**1**	△2
オートバックスガレージ	3	**−**	△3
オートバックス走り屋天国セコハン市場	4	**13**	+9
オートハローズ	35	**16**	△19
オートバックス・カーズ	4	**12**	+8
海外	9	**10**	+1
合計	546	**530**	△16

従業員数

	第55期 （平成14年3月31日現在）	第56期 （平成15年3月31日現在）	増減 （△は減少）
連結	3,474	**3,712**	+238
単体	1,131	**1,144**	+13

株式情報（2003年3月31日現在）

株価推移



発行する株式の総数	109,402,300株
発行済株式の総数	37,643,742株
株主数	11,360名
決算日	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会　3月31日
	利益配当金　3月31日
	中間配当金　9月30日 なお臨時に必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
1単位の株式の数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場証券取引所	東京証券取引所 大阪証券取引所 ロンドン証券取引所

名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
名義書換事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社　証券代行部
郵便物送付先電話照会先	東京都府中市日鋼町1番10（〒183-8701） 住友信託銀行株式会社　証券代行部
（住所変更等用紙のご請求）	0120-175-417
（その他のご照会）	0120-176-417
名義書換取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
株主優待	オートバックスセブンでは、株主の皆さまのご支援に感謝し、株主優待制度を実施しています。『オートバックス』、『スーパーオートバックス』などで、1,000円（消費税を除く）のご利用につき1枚お使いいただける株主優待券（300円割引）を、3月末日と9月末日の年2回、株主名簿に記載されている株主の皆さまにお送りしています。配布枚数は、所有株式数100株から999株で25枚、1,000株以上で50枚です。

会社情報

商　　号	株式会社オートバックスセブン （AUTOBACS SEVEN CO., LTD.）
創　　業	1947年2月
資 本 金	319億5千8百万円
従業員数	1,144名（連結3,712名）
主な事業内容	カー用品の卸、小売り、取り付けおよびオートバックスグループ店舗のフランチャイズ展開

主要な事業所	本社	（東京都港区）
	北日本事業部	（仙台市泉区）
	北関東事業部	（千葉県市川市）
	南関東事業部	（千葉県市川市）
	中部事業部	（名古屋市名東区）
	関西事業部	（大阪府吹田市）
	南日本事業部	（福岡市博多区）
	海外事業部	（東京都港区）
	C@RS事業部	（兵庫県神戸市）
	U-PARTS事業部	（東京都港区）
	東日本ロジスティクスセンター	（千葉県市川市）
	西日本ロジスティクスセンター	（兵庫県美囊郡）

役員一覧 50音順

取締役 兼 執行役員（オフィサー）（平成15年6月26日開催の株主総会にて決議予定）

代表取締役

住野　公一	CEO

取締役

井手　秀博	エグゼクティブ・オフィサー FC法人経営指導担当
住野　耕三	エグゼクティブ・オフィサー 人材配置、組織開発、法務、情報システム担当
住野　泰士	エグゼクティブ・オフィサー 車販売関連事業担当
経森　康弘	エグゼクティブ・オフィサー 商品戦略推進担当
野上　　明	COO ストアサポートセンター長
松尾　　隆	エグゼクティブ・オフィサー 経営戦略、経理、財務、広報、IR担当
横井　英昭	エグゼクティブ・オフィサー 新規事業開発担当
湧田　節夫	エグゼクティブ・オフィサー 事業戦略推進担当 兼 副ストアサポートセンター長

監査役（※印は社外監査役）

小山　勝士	常勤監査役
森野孝太郎	常勤監査役※
吉田　治邦	常勤監査役※
小川　憲司	監査役

執行役員（オフィサー）

エグゼクティブ・オフィサー

小平　智志	オートバックス事業開発担当
澤田　和良	車検ビジネス推進、サービス技術開発担当
志野　修市	出退店推進戦略担当
角倉　正親	スーパーオートバックス事業開発担当
武田　健一	マーケティング担当

オペレーティング・オフィサー

江本　吉弘	北関東事業部担当
釜田　尚文	南関東事業部担当
樋　　宏介	関西事業部担当
小林喜夫巳	海外事業部担当
戸出　　譲	北日本事業部担当
松村　晃行	南日本事業部担当
深山　義郎	C@RS事業部担当
森本　弘徳	中部事業部担当
森本　眞臣	U-PARTS事業部担当

株主の皆さまへ　アンケートのお願い

弊社では株主の皆さまにより充実した情報を適時提供するために、財務広報活動の拡充を図っております。つきましては株主の皆さまのご意見と状況をお伺いしたく、以下アンケートを実施いたしますので、ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

尚、回答方法は、株主通信同封のハガキ、もしくはインターネットの専用サイトとなっております。

○ハガキ　同封のハガキに、アンケートの回答及びお名前、ご住所などを記入の上、ご投函ください。

（平成15年7月末日必着）

○インターネット http://Autobacs.iken.to/297

上記URLで、アクセスコード入力画面が表示されます。入力欄に、

751　（半角）

と入力し、OKをクリックしていただくと、アンケートの回答サイトになります。回答、及びお名前、ご住所などをご記入いただき、最後に送信をクリックしてください。

（サイト設置期間：　平成15年7月末日まで）

1. 当株主通信についてお伺いいたします。

a. どこに興味を持たれましたか？（複数回答可）
ア）あいさつ　イ）トピックス　ウ）なぜなにオートバックス　エ）ガライヤ開発物語
オ）カー用品情報　カ）ARTA活動報告　キ）財務報告　ク）株式情報　ケ）会社情報

b. ご意見・ご感想をお聞かせください。（記述回答）

2. 当株主通信お受取りの株主ご本人さまについてお伺いいたします。

a. 以下のどれにあてはまりますか？
ア）個人株主〔一般〕　イ）個人株主〔お取引先〕　ウ）個人株主〔従業員〕
エ）法人株主〔機関投資家〕　オ）法人株主〔お取引先〕　カ）その他〔詳しくお答えください〕

b. 弊社の店舗に来店されたことはありますか？またどの位の頻度で来店されますか？
ア）月に2回以上　イ）月に1回程度　ウ）半年に1回程度　エ）ほとんどない
オ）来店したことがない

3. 現在保有なさっている弊社株式についてお伺いいたします。

a. 弊社株式を何株保有していらっしゃいますか？
ア）1～100株　イ）101～300株　ウ）301～500株　エ）501～1,000株
オ）1,001～3,000株　カ）3,001～5,000株　キ）5,001株以上

b. 弊社株式のご購入は何回目ですか？
ア）1回　イ）2回～10回　ウ）10回～20回　エ）20回以上

c. 購入された時期はいつですか？（複数回答可）
ア）1993年12月以前　イ）1994年1月～1997年12月　ウ）1998年1月～1999年9月
エ）1999年10月～2000年12月　オ）2001年1月～2002年9月　カ）2002年10月～現在

d. 購入された際、どこから情報を入手されましたか？（複数回答可）
ア）証券会社の店頭・営業　イ）一般新聞・雑誌　ウ）専門新聞・雑誌
エ）インターネット・ホームページ　オ）その他〔詳しくお答えください〕

e. 購入された際、どのような点を重視されましたか？（複数回答可）
ア）成長性　イ）収益性　ウ）安定性　エ）ブランド　オ）経営者　カ）事業内容　キ）株価
ク）値上り期待　ケ）出来高　コ）配当　サ）株主優待　シ）アナリストレポート
ス）家族・知人のアドバイス　セ）証券会社のアドバイス　ソ）その他〔詳しくお答えください〕

4. 今後の、弊社株式所有についてお伺いいたします。

a. 今後、弊社株式についての方針をお聞かせください。
ア）長期保有　イ）買い増し　ウ）値下り後買い増し　エ）売却　オ）値上り後売却

b. 今後の弊社株式所有方針を決定する判断材料は何ですか？（複数回答可）
ア）株価　イ）配当　ウ）株主優待 エ）業績　オ）経営戦略　カ）事業内容
キ）その他〔詳しくお答えください〕

5. 経営方針、サービス内容、株主優待、配当等に対するご意見・ご要望をお聞かせください。（記述回答）

ご協力ありがとうございました。

オートバックスグループ　ホームページのご紹介

お客さまのトータルカーライフにお役に立てる情報満載の弊社オフィシャルホームページです。最新のニュースリリースをはじめ、オートバックスグループの店舗案内、イベントについてのご案内はもちろん、「オートバックス・カーズ」のページでは中古車の検索・査定などもできるようになっています。また、「オートバックス走り屋天国セコハン市場」のページには店舗案内や特価品の情報などが満載です。ぜひ一度下記アドレスの弊社ホームページにお立ち寄りいただき、熱い思いを感じ取っていただければ幸いです。

http://www.autobacs.com/

なお、IR関連情報につきましては、下記ホームページをご覧下さい。

http://www.autobacs-seven.com/

AUTOBACS SEVEN CO., LTD.
株式会社 オートバックスセブン
東京都港区三田3-13-16 三田43MTビル 〒108-8307